



【第2次清瀬市教育総合計画 マスタープラン基本構想】
子供が育つ 市民が育つ まちも育つ 清瀬の教育

- I 健幸で生きがいのある学び・活動を支援
- II 家庭の教育力向上を支援
- III 学力を保証し健やかな心と体を育てる
 - 確かな学力の育成
 - 学びへの関心や意欲を高めるための教育の推進
 - 豊かな心としなやかで強かな心の育成
 - 運動習慣の確立による体力の向上
 - 教育環境の整備
- IV 郷土の自然や文化への学びを支援
- V 地域の力で清瀬の教育をつなぐ

【教育目標】 清く明るく豊かな心を持ち、すすんで学ぶ児童の育成を目指す。
◎よく見つめ よく考える子 ○親切で思いやりのある子 ○健康でたくましい子

【目指す学校像】
皆(子供たち、教職員、地域・保護者)が
笑顔になれる わたしたちの学校

- 1 子供一人一人が自分らしさを生かして、自他共に成長できる学校
- 2 教職員の個性や能力が組織の中でも発揮され、やりがいと誇りのもてる学校
- 3 「わたしたちの学校」と誰もが誇りに思い、保護者や地域と協働して子供を育てる学校

【目指す児童像】

- 1 学習の基礎基本を身に付け、主体的・対話的で深い学びができ、自分の思いや考えを伝えられる子供
- 2 自分も相手も大切に作る気持ちを、言葉や態度で表すことができる子供
- 3 互いに協力して活動し、よりよい学校生活を創り出そうとする子供
- 4 すすんで運動に親しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身共に健康な体をつくろうとする子供
- 5 何ごとにもねばり強く取り組み、最後までやりぬく子供
- 6 地域の一員であるという自覚をもって行動する子供

【行動目標】

- (あ) 挨拶をすすんでできる人
- (い) 一生懸命に何でも挑戦し続ける人
- (う) 運動にすすんで取り組む人
- (え) 笑顔のすてきな人
- (お) 思いやりのある優しい言葉や行動ができる人

【今年度の取組目標と方策】 教育活動の目標と方策(1年間の学校の教育活動全般についての指針)

子供一人一人が自分らしさを生かして、自他共に成長できる学校

「わたしたちの学校」と誰もが誇りに思い、保護者や地域と協働して子供を育てる学校

1 学習の基礎基本を身に付け、主体的・対話的な深い学びができ、自分の思いや考えを伝えられる子供 ◇学ぶ喜びが味わえる魅力ある授業・活動を展開し、基礎学力の向上と生き抜く力を育む。 ① 意図的・計画的な学習指導の実施 ・単元で児童に付けさせる力や1単位時間の流れやめあてを明確にした指導計画を立て、具体物の提示やICT機器の活用した分かりやすい授業を行う。 ② 児童の主体的・対話的な深い学びを大切にした学習指導 ・体験的な探究学習や問題解決型学習ならびに話し合い活動を取り入れた授業を積極的に行う。また、児童が自己の学習について振り返る時間を設ける。 ・課題別学習や習熟度別学習など児童の実態に沿った指導の工夫を行う。 ・高学年での教科担任制ならびに学年での教科分担制を実施するとともに、算数科では、少人数授業を全学年で実施し、確かな学びと深い学びになるような授業を行う。また全校で朝学習や学年に応じた三文作文に取り組む。 ・校内研究を通して「自己を見つめ、高め合える」指導を重点に、授業改善に取り組む。 ・知的好奇心を揺さぶる学習との出会いの場の工夫し、学びに向かう力を大切に授業を行う。 ・特別支援教室(きらり)、特別支援学級(あおぞら)と連携した教育活動の充実に努め、ユニバーサルデザインなど児童の実態を考慮した教室環境を整えとともに共同及び交流学习を行う。 ③ 特色ある教育「ESD」の推進 ・地域をもとにした環境教育や伝統文化教育を核に、人材を活用した体験型探究学習を通して、多面的、総合的に考える力や生き抜く力を養う指導を行う。 ・各教科で身に付けた知識・技能を他教科でも活用できるよう教科の横断的なカリキュラム「ESDカレンダー」を活用し、「読み取る力」「分析する力」「考察する力」「説明する力」を育む教科指導を行う。 2 自分も相手も大切に作る気持ちを、言葉や態度で表すことができる子供 ◇人と人との関わり合いを大切にし、温かい言動がとれる児童を育成する ① 人権教育の推進 ・自他の大切さや互いの違いを認め合う活動を各教科において実践するとともに、教職員が児童の人権を大切に指導を行う。 ・命の大切さを学ぶ教育や高齢者理解教育、障がい者理解教育を各学年で実施する。 ・いじめアンケートやいじめ対策委員会などを通して、教職員間での情報共有を行い、いじめの未然防止と早期発見、早期解決に向けた組織的な対応に努める。また、未解決案件ゼロにする。 ・スクールカウンセラーとの全員面接(5年)や全学年で子供面談を実施する。 ② 挨拶運動の推進 ・自己の存在を他に示す行為である「返事」。他者との心の交流の表れである「挨拶」。他者への思いやりの気持ちを表す「後始末」。この三つの指導の徹底を図る。 ・児童に対して教職員は、率先して昇降口の受付や教室等であいさつプラス一言を添えて迎える。	3 互いに協力して活動し、よりよい学校生活を創り出そうとする子供 ◇様々な集団活動に自主的、実践的に取り組むことを通して、自律的で共に助け合える児童を育てる。 ① 学校行事・特別活動の充実 ・学校行事やきょうだい学年活動等の取組の中で、児童が互いを認め合ったり、目標に向かって努力したりする場を設定し、喜びや達成感を味わわせるとともに挫折や失敗から学び、再びチャレンジできる児童を育てる指導・支援を行う。 ② 道徳教育の充実 ・自己の生き方について考えを深める学習を通して、よりよく生きるために必要な規範意識や道徳的な判断力と生命を尊重する心や思いやりの心を育み、実践力を育むために「特別の教科 道徳」の授業を計画的に行う。 4 すすんで運動に親しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身共に健康な体をつくろうとする子供 ◇すすんで体を動かす、健康でねばり強い児童の育成 ① 日常の運動の推進 ・体力テストや体育学習等で児童の実態を考察し、課題を克服する指導改善や運動環境の整備に取り組む。 ・運動の日常化と生活習慣の改善を図るため、外遊びを励行(時には、教師も一緒に遊ぶ)する。 ② 健康学習の推進 ・養護教諭と連携した健康学習を計画的に行う。 ・栄養士と連携した食育学習を計画的に行う。 5 何ごとにもねばり強く取り組み、最後までやりぬく子供 ◇一生懸命に何でも挑戦し続ける児童の育成。 ① キャリア教育の推進 ・キャリア教育全体計画に基づき各教科・領域との関連を図ると共にキャリア・パスポートも活用することでキャリア教育を推進する。 ・将来の夢、進路等 発達段階に応じて自分で意思決定をして決めたことを守っていけるよう指導を行う。 ② 特別活動の充実 ・様々な集団活動、行事等にめあてをもち、めあて達成に向けて自主的、実践的に取り組めるよう特別活動、行事等の取組を系統性や連続性を踏まえて改善する。	6 地域の一員であるという自覚をもって行動する子供 ◇保護者や地域の力を活用した指導を充実させ、児童と地域の方との交流を促進する。 ① 学校支援本部との連携 ・清明未来塾や学習ボランティア、ゲストティーチャー、きよせラボを活用した授業の充実を推進する。 ・地域の教育資源を活用した、教育活動の充実を図る。 ・保護者や地域との関わり合いを重視した体験型探究学習を行う。 ② 地域との連携 ・地域の教育資源を活用した、教育活動の充実を図る。 ・地域を誇りに思い愛する心情の育成するため、地域の伝統文化や環境境を理解し、よりよくしていこうとする体験的な教育活動を行う。 ・近隣幼稚園や保育園、地域にある施設との交流を実施する。 ・小中連携教育の9年間の学びの具現化に向け、特別活動行事等を中心に中学校との系統性、連続性を踏まえた取組を実施する。 ・教員が積極的に地域行事へ参加するとともに地域と連携したボランティア活動を推進する。 ③ 情報の発信 ・ホームページの定期的な更新を行う。 ・学校だより、保健だより、特別支援教育だより等を活用して教育活動の発信していく。 ④ 学校図書室の充実 ・図書ボランティアを活用し、読書に親しむ環境整備を行うとともに図書室活用の充実に努める。 ・学校図書館専任司書を全学年の図書の時間に配置し、オリエンテーション、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトル等の実施による読書活動の充実に努める。 ・学校図書館専任司書と連携したレファレンスによる学習を行う。 ・市立図書館と連携した学習の充実に努めるとともに3年生以上が図書館を使った調べる学習コンクールに取り組む。
---	---	---